

米沢市教育委員会 会議録

令和3年10月8日（金）

開会 午後1時30分

閉会 午後3時27分

1 出席委員

教育長 土屋 宏 委員 神尾 正俊 委員 佐藤 晃代
委員 我妻 仁 委員 渡邊 美智子

2 出席職員

教育管理部長 森谷 幸彦 教育指導部長 山口 玲子
社会教育課長 梅沢 和男 文化課長 小田 浩昭
スポーツ課長 佐藤 恵一 学校教育課長 植木 修
教育総務課長補佐 米原 裕美 教育総務課長補佐兼学校整備主査 玉虫 弘之
教育総務課総務主査 佐藤 真英 教育総務課主査 伊藤 和香子

3 傍聴人の有無 無（非公開）

4 本議席の指定

5 会議録の承認

令和3年8月31日開催分

6 議事

議第 22号 令和2年度教育委員会の事務の点検・評価について

7 その他

教育長 米沢市教育委員会を開会する。この度、我妻仁委員が教育委員として再任されたので、改めて本議席の指定を行う。一番に職務代理者の神尾委員、以降は委員の選任順で、二番、佐藤委員、三番、我妻委員、四番、渡邊委員とする。よろしく願います。

各委員 よろしく願います。

教育長 初めに会議及び会議録については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により原則公開であるが、本日の会議の案件については、市議会への報告を予定していることから、現時点では公開することが適当ではないため非公開としたいと思う。この件について、ご異議ないか。

———異議なし———

教育長 異議なしと認め、非公開とする。

———会議録の承認———

教育長 議事に入る。議第22号令和2年度教育委員会の事務の点検・評価について説明をお願いします。

教育管理部長 ———資料により説明———

施策ごとの主な事業評価の内容については、各課長から説明させていただく。本日は教育総務課長が欠席のため、教育総務課の事業については、私から説明させていただく。

———資料により説明———

社会教育課長 文化課長 スポーツ課長 学校教育課長の順で各課の主な事業について説明する。

各課長 ———資料により説明———

教育管理部長 以上が各課からの事業評価報告である。2ページに外部評価委員の野々村先生から総括として意見を頂戴しているので読み上げさせていただく。

———総括を読み上げ———

今後は、この総評を念頭に置きながら、課題の解決と、より効果的な事業の推進に努めていきたいと考えている。ご審議よろしくをお願いします。

教育長 8ページまでのところで、ご質問等をお願いします。なければ9ページから20ページまでのところでいかがか。

神尾委員 詳しく説明いただき、内容は理解した。9ページの確かな学力の育成の学力検査の取組について、課題が明確になっているものの、学力向上に結び付いていない学校があるとの記載がある。データに基づき課題は分析したものの、結果を出すのはなかなか難しいことであると、学校に勤務していた者として共感している。なかなか授業改善につながらないことがあるが、今後の各学校の取組に期待する。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、教育課程の変更も複数回あり、ご苦労が多かったと思う。授業時数も激減する中で未履修はなかったということだが、学力の定着はどうだったのかと考えた場合、令和3年度の標準学力検査の結果はどうだったのかお伺いしたい。11ページの特別支援教育の充実のところ、特別支援教育研修会については、参加した先生方に、その研修内容を各学校で伝えていただくことが大事だと思う。広く伝えていくことにより、各学校の特別支援教育がさらに充実していくのではない

かと思う。

学校教育課長 全国標準診断的学力検査の結果は、大幅に学力が下がっているということではなかったが、小学校の算数が例年より下がってしまった。昨年度は授業時数が確保できなかったことにより、授業の進め方が急ぎ足になってしまったこともあった。それでも子ども達に学びを保障しなくてはいけないという頑張りがあったのだが、特にドリルが必要なものについては効果を上げるのが難しかったと捉えている。昨年度の途中からグループ学習や学んだことの発表等は少しずつできるようになっている。新しい学習指導要領により、学んだことについて意見を交換することを先生や子ども達も意識し始めており、効果も出ていると思うが、基本的なところの定着については、てこ入れをして、しっかり伸ばしていかなければいけない。特別支援教育の研修会については、各学校の特別支援教育コーディネーターの先生方に参加してもらっていたが、昨年はその枠を取り除き、各学校から参加者を募った。それにより1校から複数の先生が参加する形となった。参加した先生には各学校において研修内容を伝達するようお願いしている。特別支援教育コーディネーターの先生以外にも、日々の学級経営で悩んでいる先生が学んでいけるような体制づくりをしていきたい。

佐藤委員 9ページの「理科離れ」については、昨年も課題として挙げられており、他の教科との比較も行うという話があった。理科を特出して、「理科離れ」と言うことは、米沢は他市町村や全国的に見て理科離れが進んでいるということなのか教えていただきたい。10ページの学習習慣の定着と読書活動の推進では、令和2年度に学校司書を配置していただいたおかげで、コロナ禍においても読書離れも起こらず、本の紹介や、読み聞かせのボランティアの方へのアドバイスをいただき有難い。自己評価をもっと上げて良いのではないか。事業の効果については、一人当たりの読書冊数や学校図書館の貸し出し冊数について具体的に記載すると分かりやすいと思う。13ページの米沢チャレンジウィークについては、コロナ禍もあり実施できなかったということだが、事業所を訪問することは、子ども達の進路選択に大きな影響を与えることだと思う。今年度は様々な分野で活躍している方の話をオンラインで聞くことができたということで大変良かった。

学校教育課長 「理科離れ」について、他市町村等との比較は難しいところである。米沢市内の子ども達の全国標準学力検査結果については、小学校の学年が上がるにつれ、理科の得点が伸びている学校もある。理科離れをしないようにということが大事である。理科は実験が楽しいというところでは、理科研修センターの授業は魅力的なものになっている。山形大学工学部の先生方と連携しながらモバイルキッズケミラボや小学生科学教室を行っている。学校ではなかなかできない実験を体験できる機会になっているので、多くの子ども達に参加してほ

しい。参加する子どもが固定化している傾向があるので、すそ野を広げていくことを強化していきたい。学校司書配置の効果については、数値化による評価と、効果を具体的に示していくことを考えていきたい。キャリア教育については、去年はチャレンジウィークを中止したが、今年はオンラインで3名の方に講話をいただいた。画面を通し、中学生も中学生らしい質問をしながら活気あるものになった。職業とは、働くということはどういうことかについて興味を持って学ぶことができた。新型コロナウイルス感染症の収束後は、従来のような事業所での体験も継続して行いたい、オンラインという形でも可能であることを学んだので、組み合わせることを模索していきたい。

渡邊委員 9ページの児童生徒の学力の向上と自立に向けた教育環境づくりの推進のところの確かな学力の育成は、最初に挙げられている基本方針であり、主要施策の一つでもある。これはどんな時代になっても一番大切な部分であると思う。目標や、やらなくてはいけないことが変わらないのは理解できるが、課題が毎年同じである。課題が明確になっているのに2年、3年経っても同じというのはどういうことなのか、現場でどのような取組をされているのか教えていただきたい。

学校教育課長 学力の向上は、永遠の課題ではないかと思いつつも、子ども達にしっかり学力をつけていくことが、教員の本来の仕事である。子ども達につけたい力をつけるために授業改善を図ることや、様々な研修会に参加することは学校全体として取り組んでいる。子どもに対する学力検査は授業の課題が見えてくるものでもある。これまでは全国標準学力検査を用いてきたが、他の検査を使ってみてはどうか検討しているところである。今年は小中学校各1校で他の検査を試用してみたところ、研修会も付いており良かったとの意見があった。先生方には自分の指導がどうだったのか、少し長いスパンで振り返る場をしっかり持つてもらうことが必要であり、結果はすぐには出ないが、子ども達にどういう迫り方をすると力がつくのかというところを勉強しながら進めていくことが大事である。

教育長 教育の本質に関わる、教育とは何か、子どもとは何かということのご質問を受けたと思っている。今年度から中学校は新しい指導要領になった。その時代、時代で新しいキャッチフレーズのようなものを設定して教育が変わっていくが本当にこれがベストな教育だと言い切れないものがある。しかし、その時、その時で次の社会を見据えて、こういった子どもに育てていかななくてはならないと対応している。さらに子どもについても、子どもとはこういうものだということがはっきりしていると指導も画一的にすれば良いわけだが、子どもは一人一人違う。家庭環境や生活様式も時代によって変わってきている。今は特にSNS等の環境の中で子ども達も落ち着いて生活できない場面がある。教育とは

何か、子どもとは何かという確固としたものがない中で、日々の教育を進めていかななくてはならないとすると、ベストな教育とは何だろうか、子どもとは何だろうか、どういう教育をすれば良いのだろうかというところを絶えず追い求め大事にしていかななくてはならないと思っている。学力検査はNRTというテストを全学年で毎年実施してきた。問題が変わらないので先生方もそれを頼りにしていくので、こういう指導をすればNRTで良い点数が採れると思い、それに向かっていくが、社会がどんどん変わっていけば、その尺度となる評価も変わるべきであると思うので、尺度となるテストについても吟味しているところである。できる手をいろいろ打ってチャレンジしていかななくてはならないと思っている。次の時代を担う子ども達にちゃんと生きていける力をつけるために頑張っていきたいので、率直なご意見をお願いしたいと思いながらお聞きした。

渡邊委員 よろしくお願ひする。13ページの発達段階に応じたキャリア教育の充実の米沢チャレンジウィークについて、昨年は中止になり、今年度はリモートで実施しているようだ子どもから聞いていた。子ども達にとって地元で職業体験をすることはとても大切なことだと思っている。リモートの講師の方の職業や活躍している地域を聞いた時は、リモートでの開催はどうだろうと思ったが、こういう職業で海外でも活躍できる、手には届かなかったようなスポーツ選手の話も実際は身近な人であり、自分の周りにもそういう人がいるかもしれない、自分がそういう人間になれるかも知れないということを感じさせてくれた。とても身近な人から世界で活躍できるような話を聞くことができたことは大変良かった。私のチャレンジウィークに対する一つの概念から一歩進んだ環境で行われていると感じた。地元の事業所さんでの体験も貴重であるが、今回のリモートでの講話は活躍の場が米沢から一歩出たところで成されているということで刺激にもなったと思う。今後、新型コロナウイルス感染症が収束した後も、地元の事業所さんでの体験と共にリモートでの講話の機会も継続していただきたい。

学校教育課長 チャレンジウィークに加えて、政策企画課でもSDGsの視点から各学校へ出前事業を行なっている。例えば、南部小学校で山形大学工学部の城戸先生のお話をお聞きすることや、小学生の地元巡りの中で米織の学習をする中で米織が世界にも羽ばたいっているということなど、地元に住ながら米沢が世界にもつながっているという学習をしている。子ども達から郷土愛や米沢を誇りに思っているという感想も届いているところである。チャレンジウィーク事業も大事にしながら、各課との連携もさらに深めて、子ども達のキャリア教育の取組を推進していきたいと思っている。

我妻委員 9ページの主要施策の今後の方向性の中で、探究型の授業改善を行っていくと

記載されている。考え方としては、標準的な学力テストの結果を分析して課題を明確にした上で、授業改善を行っていくということだが、自己研鑽と或いはそれぞれの教科の分科会での研修会というような、先生方一人一人の努力とチームとして同じ教科の先生が集まっての研修に留まっているように感じる。ベストプラクティスとは言わないものの、授業力の高い先生の授業を動画に撮り、それを経験の浅い先生方にオンデマンドで見ただけのようにする仕組みをつくっていただきたい。私の経験談になるが、高校2年生の時に予備校の講座を2講座程受講したことがあり、その時の現代文の先生の授業が素晴らしく、授業は先生の力が大事だと痛感したことがある。ぜひ、新たな手法を取り入れていただきたいと思う。

学校教育課長 良い授業を見ることが、先生方にとって一番の刺激になると思っている。本日は米沢二中の公開授業発表をオンラインという形で見ていただくことができた。新しい手法であり、可能性が広がることだと思った。新型コロナウイルス感染症が収束した後は、さらに先輩の先生方から学ぶことを大切にしていきたい。また、いろいろな研修会に出向いていただけるように発信していきたいと思っている。

神尾委員 17ページの生涯にわたり学べる環境づくりの推進の地域コミュニティ活動の支援について、コロナ禍にあっても各コミュニティセンター、中央公民館では様々な市民の皆さんの学習ニーズに合わせたバラエティーに富んだ講座が多数用意されていて素晴らしいと思っている。講座に参加される方々の学ぶ喜びは大きいものだと思う。プラスして学んだことを活かす喜びも大事なのではないかと考えている。私も鷹山大学の講座で上杉節をマスターして、生涯学習フェスティバルのステージで発表させていただいたことがある。発表できる場や地域に貢献できる、学んだことが活かせることは、学ぶことと同じ位大事だと思っている。各コミュニティセンターでもそれを意識した事業展開をされていると思うが、ぜひ、発表できる機会をつくっていただければ有難いと思っている。

社会教育課長 各コミュニティセンターもいろいろ工夫している。自主的な活動を支援する組織づくりも含めて、発表の場所、地域貢献の場所をつくっていききたいと思う。

教育長 他にいかがか。最後のページまででいかがか。

佐藤委員 16ページの生涯にわたり学べる環境づくりの推進の大学との交流や連携の促進について、コロナ禍においても様々な講座を開催していただき有難い。先日米沢栄養大学と米沢女子短期大学の学生10人程とお会いする機会があり、就職が決まったということだったので尋ねると、米沢に残る人は一人もいなかった。米沢に残って、学んだことを活かしてほしいという思いがあったので、とても残念に思った。米沢女子短期大学市民公開講座の参加者数の市民の57人

以外は学生さんの延べ人数ということで良いか。21ページの子ども達が健やかに成長する環境づくりの推進の課題に、不登校の発生率が高いとあるが、昨年の課題と同じである。昨年はコロナ禍ということもあり、例年になく多くなってしまったのか。また、教育相談員やスクールソーシャルワーカーの人数は変えずに対応しているのかどうかお聞きしたい。22ページの食育マスター育成事業については、成長期における子どもにとって、食事と健康は大事なことであるが、成人になってもその関係は大事なことであり、永遠の課題だと言える。小中学生のうちにしっかり学ぶことが大事だと思うので、この分野もよろしくお聞きしたい。23ページの普通救命講習事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で、心肺蘇生やアナフィラキシー対応の研修は伝達講習を行ったということだが、課題のところで保護者への児童生徒の引き渡し訓練を行っている学校もあれば、行っていない学校もあるというところが昨年と一緒である。今後、学校の統廃合が進むにつれて、さらに学校が自宅から遠く離れる子ども達が出て来る。スクールバスで登下校する子ども達の引き渡しは様々大変であると思うので、保護者ときちっと話し合い、明確にしておくべきだと思う。27ページの誰もがスポーツに親しめる環境づくりの推進では、オクトーバー・ラン&ウォークは137自治体中1位だったということなので今年も頑張っていたきたい。スマートフォンアプリがない場合は手書きの記録も有効にしていきたい感謝している。今後とも継続をお願いする。29ページの競技力向上の推進については、三人制バスケットボールU18で全国優勝ということだが、このスポーツ団体は小中学校のバスケットボールのスポーツ少年団に入っていた子ども達なのかどうか。28ページにあるように、スポーツ少年団の活動を育成した効果があって、その子ども達が高校生となり、このような結果に結び付いたとすれば大変な成果である。全国優勝は長年の努力が実を結んだものであるもので、評価としてスポーツ少年団からもこのようなことがあるということを書いていただくと他の競技団体にも見ていただけて良いのではないかと感じた。

社会教育課長 栄養大学は米沢からの入学者が少ないという現状がある。米沢女子短期大学市民公開講座の参加延べ人数1,628人の内、57人以外の方は学生である。講座には市長のSDGsの講演もあり、中にはSDGsを知らない学生も多く、これをきっかけに米沢の素晴らしさを知り、米沢の企業に就職する学生が徐々に増えていると実感している。山形大学はモバイルキッズケミラボ以外に出前講座を行っており、3年前から市職員の話にプラスして地元の会社の社長さんの講演を取り入れている。米沢には良い会社があるという認知は広まっているので、今の視点を大事にして郷土愛を育てながら、地元に残る若しくは1回転出しても戻ってくるという人達を増やしていくきっかけになるような講

座も開催していきたいと思う。

学校教育課長 不登校発生率については、昨年度は例年に比べ多かったと思っている。臨時休校が明けて学校が再開した時には、これまで不登校だった子どもが登校できるようになったという事例があったが、次第にまた来ることができなくなってしまったようである。マスクにより相手の表情が読めず、友だちはどう思っているのだろうと悩んでしまう子どもも多かったと聞いている。学校では家庭や関係機関との連携を密にすることを大事にしながら対策を進めてきた。不登校対策会議では各学校での成功事例を紹介して、登校できるようにする手立てについて検討した。教育相談員、スクールソーシャルワーカーの配置については、これまでの体制に加えて、県からスクールソーシャルワークコーディネーターが1名配置され、関係機関や家庭の福祉面のつなぎという形で支援しているところである。食育マスター育成事業については、健康と食事は本当に大事だと思っている。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で小中学校各1校ずつの受講だったが、今年は複数校が申し込みをしている状況である。安全教育の充実のところの児童生徒の引き渡しについては、学校統合が進んでいくと自宅と学校がさらに遠くなってしまう子どもが出てくることは大きな課題であるので、訓練のあり方を検討していきたい。

スポーツ課長 市内高校生の3×3 U18日本選手権大会優勝については、選手のルーツは把握していないが、米沢中央高校のバスケットボール部の生徒である。今後はこのような大会の上位入賞者については、ルーツも探してみたいと思う。

渡邊委員 21ページの学校不応の未然防止の推進のところ、スクールソーシャルワークコーディネーターが1名増員されたことにより、昨年度より学校と家庭の連絡が密に取れ、生徒に対して行政からの支援もあるということなので期待したい。不登校を継続させないということについての説明もあったのでよろしくお願ひしたい。23ページの安全教育の充実についての自己評価がBであることが大変気になっている。地震をはじめ、ゲリラ豪雨により河川の水位が上がってくる等の自然災害が多いので心配である。登下校時を含め、総合的に考えると、安全、安心な教育を受けられるということが大前提にあり、子ども達にとって本当に安心な教育を受けられる場所が学校だと思う。1年間を振り返ると、できなかったこともあるということでBという評価なのかもしれないが予想もしないような災害や対応を迫られることが起きることも考えられるので自己評価がBとなった理由をお聞ひしたい。また、課題として普通救命講習が消防署で受講できない場合はどう対応していくのかお聞ひしたい。

学校教育課長 不登校を継続させないという視点は本当に大事だと思っている。家庭環境や子どもを取り巻く状況を打破することが難しいケースもある。その中で学校は、子ども達と対話をして、保護者と連携を取り、関係機関の専門的な意見を

聞きながら、子ども達を学校につなげられるようにいろいろな手立てを考えているところである。安全教育については、AEDの研修は毎年実施しなければいけないのだが、コロナ禍において、一堂に会するような場面が取れないということがあります、開催できないままになってしまった。どのような形が可能か相談しながら実施していきたいと思っている。先日も関東地方で大きな地震があったが、もし、子ども達が在校中にそのような地震が起きた場合、どう対応するかということは常々考えている。避難訓練はコロナ禍であっても継続していきたいと考えている。また、学校が避難所になることも想定されることから、防災危機管理課と連携を密にし、避難所になった場合の訓練についても相談していきたい。子ども達の命を守ることを意識して取り組んでいきたいと考えている。

我妻委員 令和2年度は大変な環境の中で、ご尽力いただき感謝している。来年度以降で良いので28施策についての評価の他に、米沢市教育委員会として全体的に取り組んできたことの総括がほしい。令和2年度で言えば、新型コロナウイルス感染症の対応、ICT教育、GIGAスクール、適正規模・適正配置推進事業或いは働き方改革等がある。年度を振り返ることができる形で冒頭に総括をつくっていただくことを検討いただきたい。

教育長 他にいかがか。令和2年度教育委員会の事務の点検・評価について、議会へ報告させていただくということでご承認をいただいてよろしいか。

———異議なし———

教育長 ご承認いただいた。その他についていかがか。

社会教育課長 置賜総合文化センターホールの貸室貸出業務の一時停止について、口頭で報告させていただく。文化センターホールの照明設備については、指定管理者により専門の業者による法的な保守点検業務をしながら、利用者の安心、安全な活用を図っているところだが、8月の保守点検結果を受けて、この度指定管理者より経年劣化による舞台照明設備の故障及び不具合により事故の発生リスクが高まってきているため、貸室貸出業務を一時停止させてほしい旨、申し出があった。教育委員会内部で検討した結果、利用者の安全確保を第一に考え、令和4年1月4日から当面の間、貸室貸出を停止することとした。9月30日に指定管理者に通知を出し、今後連携を取りながら広く周知を図ると共に、できるだけ早い復旧と利用再開に向けて検討を進めていきたいと考えている。

教育長 ご質問等いかがか。他にいかがか。

文化課長 第14回秋山庄太郎記念米沢市写真文化賞について報告させていただく。

———資料により説明———

教育長 ご質問等いかがか。他にいかがか。

スポーツ課長 チャレンジデー2021 in 米沢の開催について報告させていただく。

——資料により説明——

教育長 ご質問等いかがか。他にいかがか。

教育指導部長 中学校統合に向けた共同調理場整備について、中学校校長会より要望書を頂戴しているので説明させていただく。議会等で様々ご意見をいただいている中、学校の実情が理解されていないところから取りまとめられたものである。

——資料により説明——

教育長 ご質問等いかがか。他にいかがか。

学校教育課長 市内小中学校のPTA会長の皆様に、9月15日に米沢市適正規模・適正配置等基本計画に係るロードマップ及び米沢市学校給食基本方針について説明会を行ったので、いただいたご意見を報告させていただく。これから各地区において、米沢市適正規模・適正配置等基本計画に係る説明会の実施を予定しているが、なかなかお越しいただくことが難しい状況もあるので、まずPTA会長さんにご理解いただくために開催したものである。いただいたご意見としては、中学校が3校になることで中学校通学に当たっての学区はどうなるのかということ、統合した時に教室の不足が出ないか、統合後の校舎の活用等、校舎に関する事、統合中学校の学校名の決定、開校に向けて、どのように進めるのかというものがあつた。その他、地域住民として校歌等をOBや同窓会等、自分たちで残していきたいというご意見があつた。学校給食基本方針については、議会の一般質問で出されたいろいろな数値を引用しながら財政面を心配される方もいらっしゃつたので、改めて説明させていただいた。また、センター化については、学校敷地自体が狭く、体育の授業や部活動が難しい中で、今後さらに生徒数が増えることが分かっているところに自校給食施設の建設スペースはなく、この度の判断は生徒たちを中心に据えての判断であるためセンター化に賛成するご意見や、アレルギー対応を進める際に、エピペンの使用について先生方にも十分な研修の機会を持ってほしいというご意見もあつた。今後は感染防止対策を講じながら説明会の実施方法を検討していく予定である。

教育長 ご質問等いかがか。他にいかがか。なければ、以上を持って米沢市教育委員会を終了する。